

若者よ！
得樂なうたきや
こゝろ古夜目

WAKAMONONOYO-ERAKUNARITAKYA-KORESHOMOME

古き竹書 小秀

はじめに

本書のタイトルは音読の通りです。当て字なのでその漢字に本来意味はありません。深く考える必要はありませんが、まんざら捨てたものでもないとも思っています。文字からの印象で解釈すれば、将来、楽を得たければ、夜な夜な暗いところでこっそりとこれを読めという意味にも取れないでしょうか……？

以下本当の文字を書いたら少々ドギツイ、嫌らしい、と感じるところを和らげる為に敢えて当て字を使っているのに要注意です。そこから湧いてくる微妙な駄洒落的ニュアンスを楽しんでももらいたいと思っていますので、こいつ文字を間違えていると思わないで欲しいと思います。赤裸々に本音を書くのでどうしても少々嫌味な感じが出てしまいます。そういうところに当て字を使って少し和らげていますのでちょっとクイズ的な面もあり、考えて頂ければ幸いです。

筆者は既に定年も終え半生を振り返り、若者がサラリーマン生活において恐らく勘違いをし

ているのではないかと筆を執った次第です。私自身、誰も教えてくれはしなかったし、ここま
でエピソード付き本音で書いた本も無かったと思います。約四十年が経った今振り返ってみて、
サラリーマン生活で思うことを書きました。

間違ってお年寄りが本書を買ってしまったらご愁傷様です。その時はせめて、アア自分もそ
うだったなと自分を慰めて下さい。

先ず簡単に自己紹介をしておきましょう。筆者は理系の世間というところの大手企業のサラ
リーマンでした。入る前から大企業は自分には向かないという意識があつて、取り敢えず入社
して10年間くらいは在籍するが、その後は中小企業、そして最後は自分で独立会社を持ちたい
との夢を描いていました。それがどういいうわけかどつぷりと今も約40年間サラリーマン生活を
続けています。もともとその分野の設計開発が好きで会社に入ったのですが、その分野では莫
大なお金が必要として小企業ではとても起業できない分野でした。現に先輩、同僚で独立した
人達もいるのですが、その状況をみると、独立はしたものの四苦八苦で大手の配下にて下
請としかかなりえないという実態があります。それでは独立した意味がありませんから、そうい
う環境なのだから仕方がない、と今は自分で自分のことを慰めている次第です。

最近の若者と筆者の若いころと少し考え方の違いがあるのは否めませんが、共通しているの

はあまり露骨にこの話題について本音で話すことはしないというところでしょうか。常に本音と口から発する言葉にギャップがあるようです。

出瀬の意欲が無くなった訳はバブル崩壊、不況、デフレ等で社会全体に勢いがなくなり、明治、大正、昭和の時代と比べれば社会が確立されてしまった、という面があるのかもしれない。また出世という言葉には他人を蹴落としてでも自分の地位や利益を追求するというイメージが付きまとい、世間的には大方ネガティブなイメージになっていると思います。それはマスコミがそういう風潮を煽り、強調しすぎている向きもあると思います。出世することはまるで悪のようなイメージを植え付けてはいないでしょうか。そもそも本来出世とは役所、会社での出来事に限らないはずで、スポーツ、アーティスト、芸能人、政治家、自由業などなど、どんな世界、社会でもその基本原理は同じで、要は他者からの評価によってその地位が確立されるということには変わりはありません。何かを努力して成し遂げてそれを第三者が評価をする、そして認められる。そこには必ず人間関係が介在する。従って、自分の成果と評価とが両輪のように噛み合って出世の道が開かれるという構造になっているわけです。

また世界におけるこの手の調査の結果、日本の若者の出世欲は低いという結果が出ているようです。特に団塊の世代での詰め込み教育の後、ゆとり**恐育**が始まったわけですが、確かに最

近の若者は草食系と言われ、元気が無いというか、無欲というか、競争を嫌い、変に悟り切ったところがあるのも事実でしょう。この出・瀬・欲は本音の部分では今でもそう変わらないのではないかとも思いますが、所謂日本人の美意識に抵触するものがあるのではないのでしょうか。また同じ日本の中でも地域性の違いがあり、常に本音で迫ってくる関西の方が、出世欲は高いようです。

本書を出すにあたり、この手のビジネス出版物、社会心理学なる書物も50冊以上読ませて頂きました。その出版されている書籍・インターネットでは、学術的、コンサルティングの立場、新入社員の教育、講演を手掛けている専門会社の立場、或いは牧師の立場、等で書かれていてアカデミックであり、聖人君子的な記述となっています。その殆どは文系の人の心理学的、経営学的な見地から整然とした理論のもとに書かれている場合が多いように思います。そのような立場での記述もちろん参考にさせて頂いています。しかしながらそれは理論の後付けが多く、理論があつて現実があるわけではないと思うのです。また、そんなに理論通りに世の中が動いているものでもなく綺麗事で済むものでもないということを実際40年間のサラリーマン生活を送って実感しているところです。

小生、理系で設計開発の技術畑で歩んできたので本来は理論派で行くべきなのですが、そこ

を敢えてドロドロした生々しい現実の世界の中で話を進めたいと思っています。本書では少々エゲツナイタツチ（つまり本音の部分）で書いてみました。それが故に前記しましたように敢えて当て字を使ってみるという工夫をしています。ほかの著書と比べてここまでダイレクトに書いてあるものはあまりないと思います。筆者がどこまで本音に近付けられるかが、本書のポイントではないでしょうか。

また、会社の人事・勤労で進めている評価法というものはだいたい自社で作ったものではなく、どこかその手の専門会社が作成したシステムを丸買いして使っている場合が多いと思います。実体とマッチしていないケースが多いのではないのでしょうか。結局そんなものだけで評価は決められないので、以降これから述べるようなところで、最後は評価者がエイッ！ ヤア！と決めているのが実態であろうと思うのです。

あなたは出瀨したいですか？ と聞かれて心の底ではそう思っている、口に出すのは美しくない。そう思っている人が大半かもしれません。サラリーマンで出瀨に関心の無い人は本来存在しないはずです。自分の出瀨に無頓着を装う人でも他人の人事には関心をもって噂話に花

を咲かせているのではないでしょうか。特に新橋の赤提灯では毎日その手の花が満開状態です。ここではその心の底の本音のところをさらけ出して、自分の体験、エピソードもまじえて以下話を進めたいと思います。

私自身、定年退職後もまだ現役で働いていますので具体的な固有名詞が出てくると何かと都合が悪くなる可能性があります。従って本書では私の実名はもちろん匿名とさせて頂きます。また話の中で出てくる固有名詞、つまり人名、社名、部門名、プロジェクト名、等は全て「ある***」として伏せさせて頂きますのでよろしくお願い致します。

若者よ！得樂なりたきやこれを夜目

目次

はじめに 3

第一章 君が得樂なれるか自己診断、計算で判定してみよう……13

■レベル10	上と気が合う、好かれる、可愛がられる	19
■レベル9	上とベクトルが合う	24
■レベル8	YESマンになれる	29
■レベル7	仕事ができる	32
■レベル6	賢い	38
■レベル5	性格が良い	40

■レベル4 社交的、協調性がある 42

■レベル3 健康体、体力／精神共に健康でありタフなこと 45

■レベル2 生活マナー、挨拶ができる、有難うが言える 49

■レベル1 清潔で身なりをきちんとしている 53

第二章 入社から退職まで年齢での分析……59

第三章 キャリア組について……71

第四章 傾向と対策……81

■ レベル 10	相性、好かれることに対しての対策検討	87
■ レベル 9	上とベクトルを合わせる為の対策検討	94
■ レベル 8	YESマンへの対策	97
■ レベル 7	仕事、業務の実力を上げる為の対策検討	105
■ レベル 6	賢さ、頭の良さ、への対策検討	111
■ レベル 5	人間的な素晴らしさ。聖人君子、への対策検討	113
■ レベル 4	社交的、協調性に対する対策検討	115
■ レベル 3	健康体への対策	117
■ レベル 2	生活マナー、挨拶での対策	124
■ レベル 1	清潔な身なりへの対策	126
■ レベル 0	その他の対策	129
【我が道邁進コース対策、及びアドバイス】		133
【転職コース対策】		140
【独立起業コース対策】		143

第五章 目標を達成した後は？ ……149

第六章 本当の偉さとは何でしょうか？ ……157

第七章 人生の最後には ……167

第八章 終わりに ……175

あとがき

180